



歓迎 新採用者 664人

小学校368人、中学校213人  
幼稚園20人、養護教諭25人  
栄養教諭14人、事務職員24人

発行 大阪市学校園教職員組合 大阪市中央区法円坂1-1-18(大阪市教育会館7階)

TEL 6910-8700 <https://osaka-shikyo.org/>  
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyol@sea.plala.or.jp



女性部主催の「わくわくひろば」を3月22日に開催しました。



カラー軍手を使った。

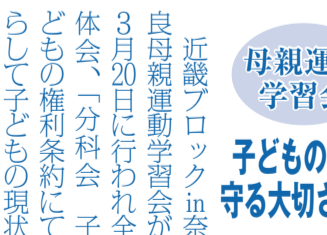
## わくわくひろば たまごがひよこに 子の顔思い浮かべ

16人の参加で、なんとひよこからにわとりに変身するたまごを作りました。2時間以上かかるだろうと、下準備を講師の組合OBがバッチリし、一人分の材料セットをプレゼントのようにセットしてあり、作る前からモチベーションが上がりました。作業の楽しいところ

「変身たまご」の準備が済んで、材料の準備が済んで、まわって指導支援してください。おかげで、参加者みんな笑顔になりました。(次回は7月19日)



力を抜いた時の姿勢



確認。歌うときは体をぐっと伸ばして、

## 母親運動学習会 子どもの尊厳を守る大切さ共有

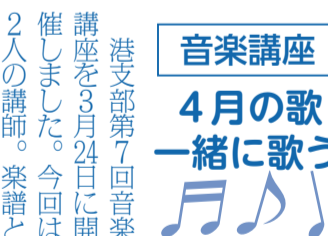
近畿ブロックin奈良母親運動学習会が3月20日に行われ、子どもたちの権利を守る大切さを共有しました。



「夢洲あぶない! やめてんかカジノ・万博パレード」が3月23日開かれ約1000人が参加しました。

「今からでも危険な万博は中止を」の署名を提出しました(国と府市宛て累計12万筆)。「万博遠足」を行わない学校も広がっています。

「今こそ女性が手をつなぎ、いっしょに学び、運動を進めていこう」と開会あいさつ。



「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

## 危険な夢洲万博強行反対 カジノとセット 維新の責任

大阪・関西万博に「行きたいとは思わない」74.8%、「行きたいと思う」24.6%(3月22、23日「共同」調査)。「課題なお山積」売れ行き低調の入場券、「万博ID」登録をめぐる個人情報懸念、パビリオンの建設遅れ、大屋根リングの護岸浸食、「朝日」3月18日付が書ききました。「夢洲あぶない! やめてんかカジノ・万博パレード」が3月23日開かれ約1000人が参加しました。「万博・カジノどっちもいらん」などと唱和しながら御堂筋沿道の市民にアピールしました。

「今からでも危険な万博は中止を」の署名を提出しました(国と府市宛て累計12万筆)。「万博遠足」を行わない学校も広がっています。各団体が万博の中止を求めています。メタンガス爆発事故の可能性が残る夢洲での開催は中止を。大規模災害時の防災対策や避難計画が不十分。会場へのアクセスは夢洲トンネルと夢舞大橋の2ルートしかありません。熱中症リスク等は避けられません。



「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

## 国際女性デー 多様性尊重、差別なくす 個人の尊厳、9条を守る

2025国際女性デー大阪集会在3月7日、ドーンセンターで開かれ360人が集いました。細川智子実行委員長が「今こそ女性が手をつなぎ、いっしょに学び、運動を進めていこう」と開会あいさつ。

「今こそ女性が手をつなぎ、いっしょに学び、運動を進めていこう」と開会あいさつ。

「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

## 音楽講座 4月の歌一緒に歌う

港支部第7回音楽講座を3月24日に開催しました。今回は2人の講師。楽譜とCDのプレゼント付きです。

「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

「子どもを救うためには先生を救わないといけない」など、保護者、市民、教職員がつながること、

## 仲間が増えた!

### 新年度 職場での声かけを「人事評価」の相談後加入

いよいよ新年度が始まりました。新採用、年度末人事で異動。新しく職場に来られた方に声をかけられる際に、ぜひ、大教済や組合へのお誘いをしましょう。

春休み直前、管理職の不当な「人事評価」に疑問を感じた教職員が大阪市教HPIにメール。返信し、電話で相談の結果、書記局に来局。今後のとりくみを相談しその場で組合加入となりました。

私たち教職員を取りまく課題はさまざまです。「子どもたちと良い関係を作りたい」「わかりやすい授業をしたい」という「先生のねがい」を実現するために奮闘しているのが大阪市教です。今年度も、あなたがまず1人、組合員を増やす取り組みをすすめましょう。

教え子を再び戦場に送るな!